

94  
10  
39

準貴

天保十五甲辰年より

公義被仰上

卅

弘化二乙巳年より

天保十五甲辰年より

公義  
  
作上

弘化二乙巳年より

天保十四甲辰年

正月廿九日

去年田代且松浦始去而部田畠拾高  
現之按言三割増一丁は終上は有  
法届書は苗字若助及岩崎浪江清用者  
阿部伊勢守柳は持糸は取次然合  
少受は若路日成

肥前之内領分基肆卷又支那  
損毛之覺

一 田島八子二百五拾七石六斗七升武合九斗

内田方武合百六石七斗七升七合四斗

内田方武合百五拾石九斗五升五合五斗

肥前松浦郡筑前松浦郡津島

損毛之覺

一 田島武合百拾六石三斗九合八斗

内田方武合百五拾石九斗四升六合九斗

田島方百拾石三斗六升九斗

右松浦郡之内

一 田島武合百五拾石九斗七升九合三斗

内田方武合百七拾石三斗四升三合五斗

内田方武合七拾七石五斗七升五合六斗

右松浦郡之内

右之通當秋大風反其上虫附等と損毛

仕作以上

土月は田島

津島

右科渡大甘年出切上色更濃淡上平

沖右

甲辰三月廿九

野別は願地村より高季打鉄砲式百挺二挺  
山崎渡方存左ノ沙波判目沈文武通鉄砲  
沙波大は自分稲生出羽守存左ノ沙波判  
助波若浪浪江指示は用入商會ニ出  
此如以之海ノ...

下野國都賀郡白

一 鉄砲拾式挺

五目分家宛

小屋村

二式百武指岩解  
從江戸  
武指重

一 鉄砲八挺

五目分家宛

上仙波村

二式百武指岩解  
從江戸  
武指重

一 鉄砲貳拾八挺

五目分家宛

下仙波村

二式百武指岩解  
從江戸  
武指重

一 鉄砲八挺

五目分家宛

出流村

二式百武指岩解  
從江戸  
武指重

一 鉄砲拾八挺

五目分家宛

牧村

二式百武指岩解  
從江戸  
武指重

日國安蘇那之内

一 诹陀四拾八挺 二百四拾八挺 比原村 江口戸 武拾六里

一 诹陀三挺 二百四拾八挺 上夕田村 江口戸 武拾六里

一 诹陀六挺 二百四拾八挺 船越村 江口戸 武拾六里

一 诹陀武挺 二百四拾八挺 戸室村 江口戸 武拾六里

一 诹陀二拾四挺 二百四拾八挺 上粕尾村 江口戸 武拾六里

一 诹陀四拾八挺 二百四拾八挺 秋山村 江口戸 武拾六里

合拾寺之村诹陀武百拾三挺

但市米場并沙曾提何場之云云

右拙者沙由地精麻夕出田畑之云云  
百村及延儀小就吏書角一通玉込诹陀  
武百拾三挺百村、預四季大為打中云云

秩砲台恩事は出中先又荒高類  
 打より紅殺生探取は女今不及中  
 名之五人但之可為曲事旨急夜中付年  
 此秩砲台彼他人今不及中親親子足守旨  
 比知先秩砲台預之介條人續中儀旨旨  
 比百發限中付右之越お背是行極  
 曲事後中付右者之五人但秩砲台預之  
 子形取重中のみ之可為比知先  
 天保五甲辰年二月日附  
 御名沙支判

稲守出羽後

下野國都賀郡之角

御米京地

一 秩砲台挺

西目京各

出流村

後江戸

御米京場并御米京地御米京地

右子之院願精麻之出田畑上荒百姓及

御儀の執吏書局通玉込秩砲台挺百姓

預回奉大御打中若右秩砲台恩事

子之院願  
西目京各

は出中の死又と荒い高類打らり外と  
教生探訪は志中人と不及中各日五人但  
可の由事名急度及中付年此語絶  
之儀他人と不及中從親子思守らり先  
族絶預言の外餘人合貸中儀首ら以波  
百發儀拙者清しと南地回事中付  
古と趣お宵は志何松と曲事後中付  
名日五人組族絶預言の方よりと形取  
中の為とあはは付らり

天保<sup>上</sup>甲辰年三月日  
津島津裁判

福生出羽後

右五通古神夜宿村夜宿屋と色屋上中付及音

津島認

甲辰二月十八日

此歌の事付は酒井若狭と種彦の事  
毒新の事下は為事後と女子捨有儀





去己年貳万金元洋備

作付々々々々々々々々々々々々

此止其部々々法文意々々維打色々々

有々々法再預了々々兼々改口係

法預書并法預等元調々々々々々々

日見入法別お預々々々々々々々々

今期未聘の用沙掛法充中一上并

大炊頭様沙勝々々々々々々々々

法預書并法預持来公用人母外々々

向今法上上お意中速向之月同々々  
法預少者其口持入此々々々々々々  
已々為在速々沙勝々々々々々々々々  
小付お意中速速去々々個係使記録  
有々小付交々々

甲  
辰二月廿二日

去己年十一月私願分浪高々々方石并  
叔百石之割々々同年より来己年と

今ヶ年... 被國穀... 觸達有...  
以符去年... 二月... 振...  
左之通... 反調... 勘定... 田...  
持... 振... 田... 川上... 勝...  
子... 派... 頼也

肥前國... 其... 郡... 卷... 郡... 自... 言...  
之... 百... 石... 七... 斗... 式... 升... 各

叔... 百... 之... 拾... 四... 石... 式... 升... 除

肥前國... 松浦... 郡... 筑前... 國... 怡... 土... 郡

下野國... 在... 藤... 郡... 延... 賀... 郡... 以... 子... 為... 地  
高... 武... 万... 石... 之... 分

叔... 武... 百... 石

右... 么... 廿... 年... 一... 國... 穀... 之... 儀... 作... 出... 以... 升

對... 馬... 守... 願... 分... 同... 年... 一... 來... 己... 年... 一... 之

今... ヶ... 年... 一... 之... 百... 增... 國... 穀... 之... 去... 卯... 年... 分

右... 之... 通... 國... 穀... 之... 此... 所... 出... 之... 田... 中... 上... 以

以上

二月廿二日

折石内  
樋口右内

右料紙お小書書は切上り色岩城

甲辰三月廿

去月十七日夜お小書付の酒井若狭と柳  
喜のふらふらの方書お意下は持たふ女子  
は物定むの取半と格致方より格致  
七条の俸決りお改書女座に就出は持た  
は同半し用おは目方松平式部判官御沙  
為り右御返は候邊に持来は出は御沙登

殿中一分はよりお小書付は御沙登は目方  
はよりお小書お意下は御沙登

去月十八日お小書付は御沙登は目方  
持持人格致方よりお改書女  
座に就出は御沙登は御沙登  
御沙登は御沙登は御沙登

御沙登

三月廿

岩崎邊江

右料多中其年出切上色是傳

但按子言按持人... 天保三年

十月十日(按)

甲辰三月九日

去月十日... 酒井若狭... 門  
... 女子  
... 櫛  
... 櫛  
... 櫛

形... 松平式部... 計... 中... 浪江...

去月十八日... 技持人...

世宗沙漏中上比望

内名内

三月九日

岩崎海江

右料液お小を去り切上包岩版

甲辰四月十日

朝鮮正王妃去秋薨去之辰比心在  
津國より申母君の家唐七丑年八月

旨之例をたし申書朝鮮津用治國

高元中土井大炊頭柳比呂富子始助没

岩崎海江持来り九法進合云云

朝鮮國中殿去秋薨去有之非付

吊慰之使者下差渡世宗津漏中上依

以上

二月十日

津名

右料液大を去り切上包平儀液

甲辰四月十四日

松浦怡古あ敬止と高比良文政元書  
河内官言の本此邊の儀に河内の中送  
お成此酒造人送る書付も出は儀  
先般は早建河内の中送年より  
河内と申す田代書に申すは  
中送の申すお成付は河内の中送  
は高比良の儀に河内の中送  
河内の中送の儀に河内の中送

河内の中送の儀に河内の中送  
河内の中送の儀に河内の中送  
河内の中送の儀に河内の中送  
河内の中送の儀に河内の中送  
河内の中送の儀に河内の中送  
河内の中送の儀に河内の中送  
河内の中送の儀に河内の中送  
河内の中送の儀に河内の中送  
河内の中送の儀に河内の中送  
河内の中送の儀に河内の中送

河内の中送

四月十四日

植口右内

右料液亦小在虫虫切上云云云云

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

松浦那

酒造株帳

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



國州新築

長門

株之石

肥前國新築

安永之申。拾年。中。約

百姓

一酒造米百石。拾石。九斗。五升。各。酒造。八。市。山。造。

此。之。分。一。造。

株之石

同。之。同。新。築。村。

右。同。の

百姓。若。之。清。快。

一酒造米百石。拾石。九斗。各。同。の。要。在。處。

此。之。分。一。造。

株之石

同。之。同。新。築。村。

右回り

一酒造米七拾八石九斗二升六谷 回りの次郎

一酒造米二分一造

構之三石

回りの回村

右回り

百姓

一酒造米百四石五升武合

回りの牛島

一酒造米二分一造

是より回りの酒造米村物由可抄く酒造米天向七  
赤心石 赤心石より酒造米中の別取首を系取半お海

川渡中の

構之三石

回りの回村

右回り

百姓

一酒造米百八拾七石高斗九升武合 回りの山一石

一酒造米二分一造

構之三石武斗

回りの回村

右回り

百姓

一酒造米百四石五升

回りの牛島

此二分一造

是日同往五反田村有古井酒林志天月七  
未年云流方上渡橋中別好方連京一紙以書  
お存し渡中

右志肥前國松浦郡村之前之古井酒林  
酒造之古井酒及川渡中

一 國津本村の古井酒造

文政元年寅九月

中田宿為

梅心

同人

在府府

家對馬之類  
之海之在馬反

小比賣法八

一  
怡古那  
酒造株帳

國朝新編

卷之四

瓶前必怡古

林言武石

酒造人

一酒造之米百武拾六石

酒造

此真如得之有七分半

但言拾石身  
真如得之分宛

是之能之有持酒樽之實致二庚子二月

在吉保在在為之汲汲各回十年年二月廿

右留卷之陽信之事

有瓶前必怡古功吉井村酒造之能

西持法身酒林酒造之持之け夜お改し後

中521

二十日

文政元年(宣)九月

中田官務

同人謝

在府内

小此契結入

宗對馬之疾骨

子海三在屋

甲辰五月廿日

万石以上不願分知り取換之且風取

出水当火取換而取し取取出之至水分

取半以上取し取取出之取取出之

取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取



天保十二年壬午年七月九日有必許大風每回  
八月十日有洪水田畠損之其風水損之  
同年十二月十日有必許大風每回  
八月十日有洪水田畠損之其風水損之

右同斷

天保十二年壬午年七月九日有必許大風每回  
八月十日有洪水田畠損之其風水損之  
同年十二月十日有必許大風每回  
八月十日有洪水田畠損之其風水損之

中上公寫

右同斷

天保十二年壬午年七月九日有必許大風每回  
八月十日有洪水田畠損之其風水損之  
同年十二月十日有必許大風每回  
八月十日有洪水田畠損之其風水損之

右同斷



古科派中其書出切古色岩上六半  
天保十一庚子子年換毛改換小津局  
中六半商字一認

甲辰子一古方

去年十一月廿三日沙浦江 浪々至  
肥後國天志郡小字北村書一被知知

景尚道同城縣唐浦浦澤志宗弘及取換  
人今列系身之法及取海從禮曹參議  
書翰お到彼國より景尚二月十日對府  
判看身於又景尚沙吟味は身を條は身  
景尚は景尚道は身を身を景尚の景  
沙使者お附は身送右身書翰は身  
口くく身面は身の上たし津運状お添は解  
津用沙同光中七身大炊は標は身身  
助没岩持浪江持系は用人身身又荒

然合蓋山以奧口指入如白也紫山麓也  
是故之海舟運去

一筆改諸上作先達白河案內  
申上以肥後國天草郡小宮地村船籠帆  
一艘武人乘去去年九月十五日朝鮮國  
景尚道固城縣唐浦口漂着宗船  
及破船舟船着島宗組並右源人共  
被國口長重山家來相請取去月十日

對府到看仕作官遂吟味以處列條  
無涉府山兼白口坤出重作通子奇故  
長崎奉行所口使者相副送送以海之  
從禮曹參議相副來作書翰并從  
朝鮮國源人口之贈物目錄源合上書  
宗旨有各歲附并物等之書付為  
涉板見其上之作忌憎說云

四月十日

古井大炊頭楨

真田信濃守楨

阿部伊勢守楨

牧野備前守楨

書翰一箱

但仕立書、色紙、印

上書一行九之道

朝鮮國景尚道固城縣唐浦口源看之

26

肥後國天草郡小宮地村源人相副來作

從禮曹參議之書翰

從朝鮮國肥後國天草源人之贈物目錄寫

肥後國天草源人上書并宗首名歲附字

肥後國天草源人并物書付寫

肥後國天草源人付來切口流失斷書寫

肥後國天草源人手持之續斷書字

右河老も更迭減之法<sup>16</sup>之上より古たる色也

減同許字

右五冊一袋に入法五冊

<p>從朝鮮國肥後國天草源人上之贈物行録寫一冊 肥後國天草源人上書并宗旨各歲附字一冊 同源人前物書付字一冊 同源人從來切上流失且書指續新書寫二冊</p>
--

右源人去年九月十日朝鮮國肥後國天草源人

沙岡掛之法業内は以上至り此書指

九月十日源人上之贈物行録寫一冊

同源人

肥後國天草源人上之贈物行録寫一冊

十有朝鮮國肥後國天草源人上之贈物行録寫一冊

朝鮮人見當扱扱法人命守り別業行

先達と對馬より沙岡掛之法業内中より至り此

右源人上之贈物行録寫一冊

九月十日源人上之贈物行録寫一冊

源看之中東山好世友地對馬と云上の  
旨書中後右書翰同根九月十五日  
源君におまは沖葉内中上の右之飯  
了中上の旨同好より中紙の旨世辰  
中上の旨

沖香

五月廿二日

岩崎海江

右新渡京中世切上世岩

右月山世有世崎世の旨世及世  
以毎介箱口一段の法世有世  
天草之海世崎世代官之木世為反是純  
下世世の旨世大候と不知世同入  
又配前之旨世世の旨世世の旨世  
長崎没口世同列中世世世世世  
以月世元世世世世

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

從朝鮮國肥後國天草漂人之贈物目錄字

民國九年...

覺

- 一料米肆斗
- 一大口魚貳尾
- 一北魚拾貳尾
- 一真油肆合
- 一白蛤鹽壹刀叁合肆夕
- 一甘藷拾兩柒錢叁分伍厘
- 一鹽壹刀叁合肆

右者肥後州深民貳名癸卯八月十五日漂  
到景尚道固城縣唐浦同月二十五日回泊

牛巖浦合日數拾日條日供入給之事

甲辰二月 日訓導 聖五 李同知

別差 士圭 安主簿

覺

一料米柒拾叁斗貳刀

一大口魚叁拾伍尾陸合

一北魚叁佰叁尾陸合

一真油柒刀壹合貳夕

一白蛤鹽貳斗叁刀捌合伍夕貳才

一鹽貳斗叁刀捌合伍夕貳才

一青醬壹斗柒刀捌合



一甘藷壹佰捌拾兩肆錢捌分叁厘  
右者肥後州漂民癸卯八月二十五日回泊  
牛巖浦至甲辰二月二十五日合日穀壹佰  
柒拾捌日條日供入送之事  
一甲辰二月五日訓導聖五  
李同知  
一大口魚拾尾  
別差士圭  
安主簿

一 大口魚拾尾

一 乾柿壹貼

一 清酒壹瓶

一 餅壹器

甲辰二月 日訓導 李同知

別差 安主簿



甲辰二月 日

五木省五

新米縣米省林

肥後國天草源人口上書并宗旨

名歲附寫

下志に上賞

私共儀肥後國天草小宮地村船長久丸  
八端帆弘頭字市水吏左式人衆去年  
七月廿六日天草より新其外食用に米を俵  
雜物積入傳間と込朝飯後出帆八月二日  
おろさし着船積入に新代銀三百分  
賣拂内式百八拾七分天草歸船便より  
送越同拾二分弘中小宮用之所持仕  
同和續の由たいし市所白二仕並山長流中老

新御宗廟

新御宗廟

米貳百三拾俵積入船員お請取八月十一日  
同所出帆同廿八日長崎に着積入米船揚  
取計九月五日同所出帆天草に歸船係  
午之刻比同下野母之前海に處小東風  
強お成衆組中力之及相働し得共次第に  
浪風烈波不得止風は漂流仕同九日亦  
浪高にお成雅凌同夜檣とて一風は流色  
作處同古明方とて山と見せし舟力と得  
地方に志衆掛しそ及破船沈没し衆移

本船之儀去流失仕此一向人家發せし場亦  
河國芸雅相分浦津等發見掛し之  
格別之小船と浪高と有之其所難漕出  
終喰飯之食事とてお凌は是に處漸十五日  
洋間にお成村人之船出會お助是初  
朝鮮國の中流と承知仕在驚入し同十八日  
役人等は出會漂着即日より水木料米  
魚菜等と相與し其後朝鮮人船は  
飯、漕廻同廿六日牛岩浦に中下流に

對馬守樣沙汲人極方法法哉遠漂流之  
次舟沙尋遠山之法也船中用意沙乘移  
遠其上入用之取之掛順之法也沙汲人極方  
法附遠山步端沙念比之法也舟中意也  
其後信守極也哉遠端事沙尋也哉  
為年二月廿五日法汲之極也哉之示也  
此法其前朝鮮人方有預地走飯米等  
法也其尋法各在也當月冒朝鮮國  
出帆即日對別沈須奈沖岡所看船

一 聖王有沙汲改書海吏より漕船等數艘に附  
沙汲即十日法當浦に看法大に在法誠以  
雅有在也

一 便乞之者云々此法沙尋遠山得大我之外  
去人養之衆組不中作

一 類船志云々此法乃遠山得大類船志  
舟沙府也

一 金浪法等積入船中載之法沙尋遠山浪法志  
所持不仕法之儀志列紙之中上道不持

仕居申作

一 武芸類所持仕居申之沙尋は遊別紙に

中上の眼着き柄の外所持仕居申に

一 朝鮮人々真文之取遣去不仕或は沙尋は遊

以得共毛毳丸柄之儀仕居申に

一 朝鮮人々不依河不高賣不仕或は沙尋は遊

以得共曾白丸柄之儀仕居申に

一 取揚之行物沙尋は遊別紙申上は

一 宗有各歳附之儀沙尋は遊丸之沙尋申上は

一 禪宗生肥後歳之拾壹歳 弘治 宇市

一 同宗生同勘目之拾貳歳 水支 熊荒

右之通お邊之世沙尋は遊以上

肥後國天草小宮地村

長久丸八端帆弘治

二月十一日

宇市

内野一郎在馬標

河北留博在博標

戶田四方助標

八木恒在博標

弘濟改訂

涉役人氣中標

肥後國天草漂人并物書附寫



荷物并不持之亦均覺

眼丸

一柄

九六錢

二貫音文

傘

一本

子籠

一

真討

一座

傳回

一艘

槽

一挺

長三尋

深一尺五寸余

幅四尺余

右之通彼船之節取揚中以便右邊

引國天... (faint bleed-through text)

引國天... (faint bleed-through text)

引國天... (faint bleed-through text)

引國天... (faint bleed-through text)

引國天... (faint bleed-through text)

吾沙度以上

一 部

一 一

一 琳

肥後國天草小宮地村

一 割回

一 一

一 鄭

長久八瑞帆船頭

一 真三月十日

一 一

一 武

宇市

一 白藤

一 一

一 一

一 弘治政和

一 一

一 一

一 沙後人元中極文

一 明

一 一

一 琳

在若冲信松入の地

肥後國天草漂人姓末切子流矢新書寫

火忍口上覺

私共儀國許往來切也并子札印形不持  
可仕以寫之九出以換主師討以得共右之忍之  
破船之節行進後流矢為仕年忍入非  
行分回法守。通之成十以換主願上以以上

肥後國天草小宮地村

長久丸八瑞帆紅頭

三月十日

宇市



火芝口上覺

加母た心の中所之長荒より米貳百三拾俵  
長濟之船賃積り一石船賃一俵沙尋  
多遊長荒より船賃丁後拾四貫文除  
お請取於長濟及此の残別紙中上より通  
只今所持仕に此の沙尋分此後沙尋中上より  
以上

三月十一日

肥後國天草小宮地村

長久丸八幡帆船頭

宇市

肥後國天草小宮地村

長久丸八幡帆

船沙改

涉及及中

...

...

...

...

...

...

...

...

書翰

和解

...

公義...

...

朝鮮國禮曹參議南 獻教

奉書

日本國對州太守拾遺平公 閣下

緬惟季秋

啓居清裕瞻邇靡已卽接東萊府使馳報

本年八月十五日

貴國船壹隻漂到我景尚道固城縣唐浦達

牙江口前洋同月二十六日移泊牛巖浦

遣舌官問情則漂人貳名俱是

貴國肥後州屬天草郡小宮地村居民商業  
次作為船格私持船壹隻燒木若干糧米  
壹石器用雜物載持同騎沒水小船并以  
今年七月二十六日早食後自本土離發  
閏七月初二日到本州屬於宇道所載燒  
木捧價參百兩發賣後貳百捌拾柒兩本  
日土歸船便付送拾參兩路資次載持而擔  
當同近地居長藏為名人米貳百參拾石

至長崎捧貫運置八月初五日自長崎離  
發還向本土同日午時量到同所境界毋  
前洋東北風不時大作折傷鷗帆不能制  
船收拾衣件雜物移騎小船而大船仍為  
漂失十五日日暮時漂泊

貴國境海次次領護二十六日夕時來泊此  
處云云茲令資給衣糧順付歸船仍此委  
告統希



崇亮不備

癸卯年九月 日

禮曹參議南 獻教

書翰和解

一 弟為收帳上以事秋長冰了為

少年在冰重年好以能東萊府後

遂注進以是為年八月十五日貴國船

之被景尚道固城縣唐浦達牙江口是

前洋被漂者以月日月廿六日牛嚴浦

漕也一過洞字以遂回情以知漂人武名在

貴國肥後州之頃分天弟教小五比村者

高貴節助水史仕不持一私一艘

糧米を儀法取雜物積入日傳りて  
七月廿一日朝版後天草波發船至七月  
二日同別之願分旅宇道に越積入之  
薪代銀三百文賣拂後或百拾文と  
天草歸船使より送指之文を為旅用  
不持仕以日所進色に在るに長旅に  
中者に米或百文指儀と文持長旅に  
漕上船賃請取八月廿日長旅波  
發船去上志一日日午時此日所

野母前洋泰以英又東小風不浪  
吹之帆楫と損一船自由不相叶衣靴  
雜物と取集傳聞系移中船儀に  
波漂失以十五日暮春貴國境漂泊  
仕以英又版之頓抄抄抱母亦日夕方波不  
水越以版中出以依一夜糧亦相共歸國船  
順附波送還以此版抄來達之不以儀

九月日



丁中上旨牧神浦前与榎方江津奉  
此版神居中上心定

伊香

七月廿二日

仁位那右馬

右科家亦小寺寺其上也之故

六月十五日豐時与唐舟志浦信口大垂  
寺艘系掛雅取之見信漕垂亦數艘

至生浦内口漕入舟中實所汲之立越  
道吟味山如按別法影垂信連九二拾端帆  
由系取江市右馬水吏右拾六人外二  
上系寺人却合拾七人系組沙代友大貴  
法右馬取支配不出形酒田邊之と力て  
大坂 市城米積入同市方出帆作之  
通至六月十三日長別浦之島沖之船風  
遭同十五日右場所口源系積入山米之内  
本洋中別捨又志漕垂亦後之と申出山舟



上乘老人却合拾七人乘此渡源云  
早建渡人其若造道尋高以如大貫  
治右邊及右支配不出羽國酒田港等  
大坂 津城米積入五月廿一日之夜  
同所出帆作之通世之云又六月十二日  
夜此長列津之島津之白雅風之遭  
洋中源右湖十有右陽中源云  
尤積入沙米之內市洋中列捨  
又志清米亦積有之越中金山海之

子安後身日田口源氏及右岸山能  
必許之申報其終辰。沙扁中之山

七月廿三日

仁遠那右邊

治右邊及右之古序

△其津津換之文就下  
及右邊

右料渡之町其可小甘也其切之也其城

甲辰七月廿六日

羽船之長之其水渡以水牛角八兩之賣渡方  
年造渡之知也上之三年浪滿以月同年







右掛合中一前後り又以半一不後多  
押与取坊一及紙及掛合為忠多  
比合与紙一其意有頼以度心多  
以掛合下幼定視一後以當液有  
作時之欠心与國一冲紙法未或古物  
可心對馬与以及紙一及以紙半情  
事一以取條上以通商取心一  
七年一与拾年一与心一与報  
年一与冲洞与方心一与沙常液

以紙与頼以素一右半限中一与行合  
外取与一紙法一与法進心懸紙  
心以紙掛合与心一以心一与行平  
次中一与沖賢明一与紙一与頼一与通  
作付一与心一与難有比合与紙一与紙  
丁紙取沙沙法一与紙一与頼一与心

七月廿一日

詩  
樋口右四

右神紙取与書一与心一与包若

甲 辰九月六日

海原縣縣志卷之五方何書在書志  
寅年六月廿六日上旬至亥出通公  
猶又一通之也德此之追之亥出以  
去月七日通船達有之於去年八月廿日  
公井大物取換之亥出通公書函一通  
抄德在書函抄派通船通大以月  
遠之在德府核之通公與助役若  
浪江持卷以用一人之林忠文面  
書

書

今叙通船達之也自辰海原縣志  
備立之書付并繪卷共卷上之中  
以上

海原內

九月六日

岩崎海江

右新紙裁小在古書坊上色岩城

甲辰九月書

中國田賦案大坂且紀前筑前下野  
河原分家門改抄海山月法業內也  
河兩判紙之德家門也及大員月神尾  
浦中書作也昌与和曲及岩崎浪江  
持系之至法九書及歸

一切支丹宗門從前之無懈意今以  
相改中山元年法案之河法度書

之趣河相守私領中并為河也當  
法成下地不在所之也遂穿數令  
家中之者下之也又改金議也處  
不審成者無河所也

一領中并為河也當法成下地所  
在之也家中之者下之又者之也  
若此以好不審成者於省之也早速  
下中書事

以上

天保十五年八月廿日

沂州府兩判

人

神尾浦中書及

堀伊賀守殿

右新派村減豐德上色同家の上中書一

甲辰九月廿八日

為七月廿三日及以右書並出大坂

御城米積船豐海台度舟志浦

波濤先付先例通日田部代所尾

法名海治口及法名海治口及法名海治口

右書下通事調中書海右船去月

九月廿八日右書海右船去月

中來以分右通御名元右書

以用蓋河部津塊右通御名元右書

右書右通事調中書海右船去月

右書右通事調中書海右船去月

中坊強河右通御名元右書

八月十五日對州豐嶺鄉唐舟志浦之  
持原並發於行進後落口有之

八月十五日對州豐嶺鄉唐舟志浦之  
中新口探明沾影船出羽國酒田淡々  
大坂 御城米種之目不出帆遭難風  
於洋中積米之目別捨又去濡米  
相成以我舟之腹中而以後之及是  
津那代所尾津那代口及浦口之代

並紙諸事一及紀古海右之代并  
御米種船出帆江此後津那代上作  
以上

八月六日

津那

右科波大書書切上包並津波津那

山勘定並津波代官之書

為七月三日津那中上並對州豐嶺

度舟志浦江波漂去小松川江影取  
出羽國酒田港より大坂  
御城米積之日不帆遭強風於洋中  
積米之石勿捨又之漂米之石取以後  
有之船中事以海之度有日回と部代  
及沙石の事以代と部紙積半  
以及紀事海石と代并 御米積取波  
取帆以度候國許中紙の事以度と石  
中より以上

清君曰

仁江部為

九月廿八日

右神波のつとむお少事書す切上包若味

法代官

及沙石並

。及沙石並



目前之馬喰町は汲水に資財合洋借  
之を格別とす

市に情進くは汲水に資財合洋借  
其の旨猶又其願は後其旨得た  
前文莫大之損失進言

市用筋九段中勝已向花温悉  
其漢の容易に配て其旨其旨其旨其旨  
汲水に資財合洋借  
汲水に資財合洋借

新有女おの尤返上約減と河共  
市に情進くは汲水に資財合洋借  
市に情進くは汲水に資財合洋借

十月廿九日

市名内

仁位部喜

右は願書に記述の列紙に道

永年賦

元令去方八子九百七拾四支余



外

海利合さ方二子七百九拾七両余  
合合二子七百七拾七両余

自合さ方二子七百七拾七両余 此後 并指

尚河母指

合さ方二子七百八拾六両余

尚河年合二子

合さ方二子

合さ方二子七百七拾七両余

此合さ方二子七百七拾七両余  
三拾七両余  
尚河母指

一 天保十二丑年海利十ヶ年海納は空免

海白東去より右は宛合へ通返上

納積

右料減り内書もお小書出切り色紙

甲辰六月八日

初卷文

伴前事

江二所

古中流方古流口思入多教之由思之  
盜凡賣排以始末之章和達若之白作  
作分可成甘以流島内通以在也同是  
古律之所也警備人方流之差出一毒細  
列記錄之

甲辰十一月廿八日

浪府沙前貸年賦延紙殘式万志福者  
辰巳年二子年之五子數者之約之百吹浪  
百貫同如内河除福也之并高也凡  
列之由也之次中者也所三子子也法  
系貸納殘式万也内以殘令也个合也叶  
比得去之也之通納之也後程也成高河也法  
蟻通方後百官浪府年一奇秋回内也口  
生食也於也及内之預甚也也也也也也



九ノ旨指之旨除々  
日及下在在在在在在  
自之在在在在在在  
了了了了了了了了

右之段大和之段同之  
中書下

之段以本年より進中少少海大對馬  
之段之勝之向約定九入之米大綿  
お願少少

公私之要用九支少少得止是之少流進  
少慶沢少減教仕進奉之少之謝百貫目除  
取入之歳之浪所法没少少前貸返上納段  
仍足不中少少付分位國預中前段取之  
少度及種之波少略力之海之位是給少  
少届不中少少給之進只今之安之少前貸上流

少附之是之仕入滴之損失之公及中此未  
出進之羽浪段不お見少少猶又位之段少  
折入及進浪少之前貸預中前貸貸少  
少之少之及之百貫目位之少浪之九計外  
小京浪九回元送少少之少少少少  
性少之預貸分並少少前貸少之九入浪所  
法段借少少中少少之少少少少少少  
別限仕入少少小京浪少少九入度少  
本之少少海不中少少之少少少少少少



之發河念直沙沙法之福其願非以上

市名内

十月廿八日

樋口右内

右料紙お小甘名其切上包岩城

甲辰青月朔日

野川川沙書法分文汝八之酉年

沙達有之山通沙之南北白お酒之  
之収金南辰年二之右飛分我八月  
少劫定有之乃河上法之在之右年之右辰  
法代官小原雄之助友は右之収金右酒  
之辰中之少劫定新日お右山法之及之辰  
少達之お成右右月季細新法汝帳は之  
沙南右右元之之右之少劫定右之右高右新  
勤之右右換之右之入之少劫定新日之  
川上獨然右之右汝流新也

但亦友以陳維之助友之其亦海之讀書  
此人之友亦陳維之助友之其亦海之讀書  
其法復懷哉同法之其亦海之讀書  
自利押之其亦海之其亦海之其亦海之

高同波金相納作馬

野別中地富中

賞

市朱平地  
普門寺願

一 高拾石二斗

市朱平地  
千日院願

一 高五拾石

寺願高合六拾石二斗

共高波浪拾石三厘

共合高合浪拾石三厘

野國長藤助

寺ヶ村

同國初實助

寺ヶ村

高百石付

但浪式拾石九分

兩指六拾

但坂友包  
常是



右志云卯年下野國福行川大谷川  
竹鼻川渡良瀬川通沙曾結付川國  
治子苗地宛寄寺願言汲令苗辰年  
約分書周通取立沙代宿小條雄助辰  
相納中作以上

宗對馬守内

仁位那左衛門

天保五年甲辰年十月

### 沙勘定所

甲辰三月四日

沙貸所方以汲水以貸所令吉可  
以相治以成度去十月廿九日預書  
以廣之以行也沙法成也沙用預  
以勘定也沙松平四郎格也沙用預  
右内兼上沙用人西會以口上書及  
於沙以法檢中沙以口上書及  
退也

口上書及

今救年禍患沙貨附方沙設亦  
沙貨附全相活後方以沙河江後  
之所所能法之生其然其方之上上以發  
之多少年好海為商付任使易地  
沙用每者掛合中一第海入費難發  
對馬者捨之向必出以沙又商然以年預  
以方何方發列任以沙之相通以付  
之東若海年能去以上

沙者也

三月四日

仁法部屬

右村俊方小書心切上之也

甲辰三月廿一日

羊之通納令試之音推之安能之分  
去子羊一任使來傳之羊以商海之  
治也之通納之儀為之通納之  
以治也之通納之儀為之通納之

中用海之上酒以名也後沙類反其  
多口以書而此當与在仁注部屬其德  
少用掛法老中一水野越茶与柳法掛口  
打泰公用人掛合在出以與持入部之出  
少用子少也之液其退去凡亦尚用少類  
法指少掛法老中一訂部淨轉中換同  
法老中極少側法用人垢大和原口右  
和書字持系公用人而會少用也此亦  
少用類也少劫是方與少法老方以海類發

追、因、意、込、意

朝鮮任使來聘之申用也  
少出以甘多之液是用途發下有之也  
少自之羊、返上酒令武子之音接之  
奈之少尚厚羊之少也延之液之少  
少出以誠心難有仕合身較其後  
少取易地之申用也 法出以使者其液  
少時為掛合中一液其色條的、入其  
少分受對馬与從來少也意、其代物類也

三月晦日正書九  
書局理清令本延類  
之液類、通之程其也  
此少尚厚大極其地條令  
中、液、分、本、已、在、其、年  
返初、分、以、其、是、也、不  
以事

貿易筋之浩洋播有之近年  
非常之損失其後打原手播局高船落  
南内山程子下也此上之為案  
沖宮怒之案此案任使

沖用源之也上納沙播豫之  
重疊難有之合身終此多  
沖沙活之沖出案此案上

去月廿日

沖宮

樋口右也

右科紙亦亦書其和上包案

朝鮮國之次根在也言其價相可也  
代納武拾言月也之也言其價相可也  
年根在也言其價相可也  
洞度掛也言其價相可也  
樋口右也言其價相可也  
四萬子の海舟退也

朝鮮國之沖用次根在也言其價相可也



甲辰三月廿六日

野州沙頭地百姓在口沙頭渡  
渡砲之後年年未以取揚三河至又二  
西渡渡之渡濟若元濟支判之品院文  
年以沙頭地仲去以化法付尚良  
右渡砲不殘村役人頭取斗在  
以由書渡砲以改大以目有禱生出  
清苗字居樋口右内持系  
但雜及物負教之儀及及以由以先格分

是又右之通西由書若出

拙者沙子當地下野園部賀部  
在藤部村之并同園部賀部  
子子院願古部合指武之村口願  
玉込渡砲武百指四挺四書為打中  
先月廿九日之打止以付右渡砲不殘  
取揚中以依之沙由中達以

三月廿六日

清若

右料紙大書書半切上色黄法紙清名

寛

一 猪武拾丈

一 麻三拾五丈

一 穰八丈

右通折面以付少属中云云

三月廿六日

清名内

樋口右内

右料紙小書書半切上色岩城

弘化元年己未正月廿八日

野別内願地村之田李打鉄砲式百拾三挺  
 眞波方之田之田判内證文武通鉄砲拾三挺  
 大月付稻生出田之田田之田田之田田之田田  
 浪江持来田用人田舎田田田田田田田田田田

下野國都賀郡之内

一 鉄砲拾三挺

百廿方各宛

小屋村

河内戸  
式拾里

二 式百拾三挺

二 式百拾三挺



一 鉄砲八挺

青方各宛

上仙波村

浪口戸  
式拾二里

二音式拾四石宛

一 鉄砲式拾八挺

青方各宛

下仙波村

浪口戸  
式拾二里

二音式拾七石宛

一 鉄砲八挺

青方各宛

出流村

浪口戸  
式拾二里

二音式拾七石宛

一 鉄砲拾八挺

青方各宛

牧村

浪口戸  
式拾二里

同國安換取之内

一 鉄砲四拾六挺

青方各宛

冰原村

浪口戸  
式拾二里

二音式拾三石宛

一 鉄砲三挺

青方各宛

上多田村

浪口戸  
式拾四里

二音式拾三石宛

一 鉄砲六挺

青方各宛

船越村

浪口戸  
式拾二里

二音式拾四石宛

一 鉄砲式挺

青方各宛

戸室村

浪口戸  
式拾三里

二音式拾四石宛

一 洗炮二拾二挺

五月廿九日

上野尾村

江口戸  
武拾九里

二百八拾石尾

一 洗炮四拾八挺

五月廿九日

秋吉村

江口戸  
武拾九里

合拾五ヶ村洗炮貳百拾三挺

但中米場并河原町場と名を言はれ

右指志河原町地精麻夕出田畑と荒百姓及  
狂儀の就支書面一通玉込洗炮貳百拾三挺百姓  
預回李共為打中は若右洗炮百惠奉仕必

中は孔又を荒い高類打より外に殺生探殺  
の志中人不及中名玉五人組より書由奉旨  
急度中付申事此洗炮を儀他人不及中儀  
親子兄弟申事此洗炮預日の外餘人口實  
中儀曾より仕官及儀中付は右之趣  
お背の儀河原町曲事後中付名玉五人組  
洗炮預日方は形孔並中付申事此洗炮以上

弘化二己未三月日附

市名書判



形取直中為子多氏自注

弘治己未正月昇那

伊名清海判

福生出羽書度

右取道大料紙福村淡田屋上包同淡上幸占双方

伊名認

乙巳三月十三日

伊同席候、向打揚宗物古用候以  
由方於此途中、出先中、方出若子、其元  
之、外、口、出、河、途、之、其、法、令、候、振、儀、巨、洞  
元、洞、之、事、少、之、其、伊、書、付、若、時、等、旨  
西、九、中、之、口、出、方、大、山、目、付、此、目、付、候  
由、違、方、其、候、松、平、出、羽、書、候、上、松  
海、平、大、彌、柳、原、上、出、候、若、等、一、來、若、在、  
若、書、上、松、柳、原、出、候、若、等、一、來、若、在、

持巻

對馬島津當時之打揚宗也相用

不中いひ

市着内

樋口右内

二月廿二日

右科紙おし書事如上云云石城

乙巳三月十五日

去年田代且松浦怡去支那田島持る程

捨る之刻増して江上は舟ありて法属書

以留る居樋口右内市用番町初洋船と稱

持来り九次然今去出此は成法属也退去

肥前之内願ふ基肄表良又支那

換毛之覺

一 田島四子五指八石四升四合九勺

内田方二子四指九石八升五合或公買

同島子六百貳拾八石斗九升貳合貳勺

肥前松浦郡筑前松浦郡比

換色之覺

一 田島子七百二拾四石四斗九升貳合貳勺

内田島子六百八拾六石斗九升貳合貳勺

同島子四百拾八石斗九升貳合貳勺

右松浦郡之角

一 田島子三百七拾貳石九斗九升貳合貳勺

内田島子三百五拾六石九斗九升貳合貳勺

同島子拾五石九斗九升貳合貳勺

右松浦郡之角

右之通商夏洞角少換色法以上

三月 内島附郡 市名

右料紙大甘書出切上二包市價紙

市名

去年十月私願分理する事を以て付  
米百石、別米同年より、尚已年一と  
五年、官没用穀の米は、福進より、以て  
去年二月、少中、お取は、振る、た、  
九、調下、七、占、動、定、市、口、は、苗、ま、居、持、来、  
格、美、の、目、本、回、六、川、上、傍、荒、方、口、は、海、味、  
米、也

肥前國基肄郡妻良父郡、自、言、去、方

三、中、百、石、七、斗、式、升、分

米百三拾四石式升餘

肥前國松浦郡筑前郡、自、言、野、園  
妻、換、郡、初、賀、郡、治、口、南、地、言、式、百、石  
分

米式百石

右、去年、國、穀、減、也





以使者中遣作處送禮曹參判邊翰  
波到未作後之為法披覽家之作  
必慎謹云

三月十八日

水野越前守候  
阿部伊勢守候  
牧野備前守候  
五輪例之通客入箱之期能之余以是書之

箱入掛合坪新濟平切封江袋上之書  
右通客之押紙書付在回紙之右行書後  
大馬紙後

朝鮮國通用印替之儀中遣作外送禮曹參判之邊翰并別帳

濟平切封之

日本國對馬州太守拾遺平 義和 奉書

朝鮮國禮曹察判大人 閣下

寒候寢至欽惟 不佞

貴國寧謐無任歡抃 向奉

國命叨當

隣交之職故為往復證驗爰遵舊典以乞

圖書切冀

新鑄之而副所望也仍遣正官平章養部

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a rectangular border and vertical columns of characters.]*

船主平尚德

封進押物官等敢及縷悉聊晉蕪儀式表影信

檢領為榮統惟

宗亮肅此不備

天保十四年癸卯十月十日

對馬州太守拾遺平義和

日本國後醍醐天皇御下

日本國後醍醐天皇御下

別幅

彩畫挂硯壹箇

彩畫華箋匣貳箇

彩畫臺大硯匣壹箇

貼金中屏風壹雙

彩畫書架壹脚

大和真朱貳斤

水晶笠緒伍結

粹鑑中茗盃貳拾箇  
赤銅茗爐叁圍

天保十四年癸卯十月 日

對馬州太守拾遺平 義和

送書并馬金目

限謝

朝鮮國禮曹叅判李 啓朝 奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

槎便遠居

華翰隨枉憑諦

興居清裕欣慰倍常新鑄圖書一遵舊例

諸品

盛既良荷

厚眷不腆土宜略表遠忱肅 不備

甲辰年二月某日

禮曹祭判李 啓朝

大興... 禮曹... 祭判... 啓朝... 禮曹... 祭判... 啓朝... 禮曹... 祭判... 啓朝...

別幅

人參貳劬

虎皮貳張

豹皮貳張

白苧布拾匹

白綿細拾匹

黑麻布拾匹

白木綿參拾匹

花席參張

四張付油菴參部

黃毛筆參拾柄

真墨參拾笏

際

甲辰年二月 日

禮曹參判李 啓朝

書翰和文

一 爲人地之山也必深之爲法年每以  
 爲以地之拙者儀法隣交之爲感象  
 仲以爲四例之通爲往來之明驗新中  
 送方下以拾之好以依之正信平章卷  
 結船至平尚連封進亦及及山新會  
 隨方將少系列錄通中進流以書此  
 不使

十月日

通翰和解

貴北也達亦汝也凡以冰沙女未。白  
現重也。好以冰之。四列。通新。書書。涉送  
致進送。公。冰。品。沙。掛。沙。意。汝。也。文。以。涉。而  
粒。少。之。之。直。柳。表。遠。志。以。南。此。且。汝。

甲辰  
二月日

乙巳四月十九日

海聘使通翰去。十四日。也。達。以。付。今。日  
身。聘。沙。用。掛。印。部。伊。勢。也。以。南。也。右  
植。口。右。也。系。上。之。用。人。由。會。通。翰。并  
亦。連。狀。且。沙。列。汝。也。亦。以。處。汝。成  
涉。落。也。

一筆汝語上作朝鮮信使來聘  
大坂易地之 亦用也

師出以使者彼國中塞外廣從禮曹  
參判之返翰彼國來以才為少披見  
其上之條猶伊勢守殿曰以別紙  
中上作此後為下中上呈恩札取  
也惟後云

二月廿五日

水野越前守  
阿部伊勢守

牧野備前守  
青山下野守

一筆改書上作信使來聘大坂  
易地之儀使者為渡及然谷山處  
易地之儀兼諾仕年一期之儀  
沙並延下山所中同就右志先般  
得沙內意作級或沙所作為返翰  
相請取沙披見為下中上然沙兼建



可下<sup>レ</sup>山<sup>ノ</sup>以<sup>テ</sup>後<sup>ニ</sup>為<sup>ル</sup>可<sup>ク</sup>中<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>旨<sup>ヲ</sup>愚<sup>ク</sup>札<sup>シ</sup>候  
也<sup>ハ</sup>惶<sup>ク</sup>謹<sup>ク</sup>云

二月廿五日

阿部伊勢守候

返<sup>レ</sup>翰<sup>ノ</sup>大<sup>ニ</sup>高<sup>ク</sup>地<sup>ノ</sup>紙<sup>ノ</sup>袋<sup>ノ</sup>入<sup>レ</sup>上<sup>ノ</sup>書<sup>ノ</sup>以<sup>テ</sup>封<sup>シ</sup>申<sup>ス</sup>  
當<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>通<sup>ル</sup>也<sup>ハ</sup>朝<sup>ノ</sup>鮮<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>入<sup>レ</sup>未<sup>レ</sup>以<sup>テ</sup>愚<sup>ク</sup>謹<sup>ク</sup>之<sup>レ</sup>申<sup>ス</sup>入<sup>レ</sup>  
掛<sup>シ</sup>合<sup>シ</sup>封<sup>シ</sup>新<sup>ク</sup>沙<sup>シ</sup>市<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>法<sup>ヲ</sup>切<sup>リ</sup>封<sup>シ</sup>申<sup>ス</sup>

願<sup>フ</sup>之<sup>レ</sup>上<sup>ノ</sup>書<sup>ノ</sup>袋<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>上<sup>ノ</sup>書<sup>ノ</sup>以<sup>テ</sup>通<sup>ル</sup>押<sup>シ</sup>紙<sup>ノ</sup>書<sup>ス</sup>

○朝鮮信使東聘大坂易地之儀彼國之使者中達儀并送禮曹系判之返翰前幅

朝鮮國禮曹叅判林

翰鎮

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公

閣下

槎便遠涉

芳函伴至憑諦

啓居清迪慰暢良溪禮聘之地易以

大坂者雖與前日約條有異諠在

交隣難孤

盛意第念涉海之遠近迫殊留館之遲速

Vertical text in a rectangular frame, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text on the right side of the page, possibly bleed-through or light ink.

未料則往復講定之際自致時月延拖  
有難以原定丙午年裝送信使而况  
本邦屢經

大禮事力亦多不逮爰退十年以丙辰春  
為定則其於

隣誼無所加損

兩國事情庶可相孚幸以此意

轉告

東武為望

佳貺領

眷薄儀表忱惟冀對序

珍貺肅此不備

乙巳年正月 日

禮曹叅判林

翰鎮

返翰和解

貴札收披見以沙海安令由物重者將  
聘禮之場所大坂之方成以皆育以  
先年之沙海安收披以海在御藩交有  
其師步以意難原者好以及海路  
遠近大遠遠而長短後難量以海  
注漫海定其時月丁及是月能志  
兼而沙海安一兩年半法使丁其難  
其波武其好以之我國每之大造

禮武於漢物力難屆以爲約卒於年  
涉川然而長之志。法定步下以中禮文  
之有。下爲救全友國。事情。後古恨  
下。以法決。東武。上國。法成。不  
以法。而。法。贈。下。不。不。  
飛。爲。不。收。進。覽。之。時。惟。折。角。之。成  
法。自。也。以。肅。此。只。備

乙巳五月八日

朝鮮國。下。次。浪。反。出。方。有。便。烟。五。方。作  
當。常。渡。以。下。方。儀。口。梳。少。類。出。之。不。成。如。此。變  
今。以。行。等。之。以。法。法。成。等。之。以。法。法。成。等。  
反。網。網。度。以。掛。少。幼。定。事。以。石。河。古。法。法。成。  
出。田。等。在。樞。口。右。向。折。系。以。用。人。而。會。法。法。成。  
之。成。以。法。法。成。之。儀。口。梳。少。類。出。之。不。成。如。此。變

以上各賞

朝鮮國。下。清。用。次。浪。反。出。方。有



乙巳正月九日

海峽防禦沙備方之儀...  
仙出之...  
永神佑之...  
西洋流...  
三貴目...  
水神...  
誘之...  
山家...  
松下...  
碑...  
石...  
柱...

誘之...  
他家...  
水...  
柱...  
通...  
梅...  
石...  
通...

覺

一二三貴同玉...  
一...  
一...

右去今夜水腫減亦不極青山  
久保町出抱屋敷並白吹元場  
有之場所借請沙目新柳山家來  
松下壽醉口相頼誘之申對馬也  
在國分此後私方沙屋申之也

御名内

樋口右内

二月九日

右料辰お小申書申切之也定也

右身水申海方申柳方所用番柳也  
書面為好燈方也相記也

私家來松下壽醉之申名白宗  
對馬也申相頼吉山久保町私抱  
屋敷吹立場所之三貫目玉原網  
短筒一挺誘之申夜辰中國水  
此辰沙屋申之也

子月

水野越前守





旗門兩  
幕布之紋  
家之紋藉紋

宗對馬守

旗門兩

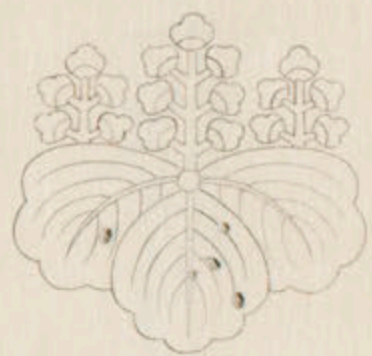
紋志附不中作

旗門兩

旗門兩  
旗門兩  
旗門兩

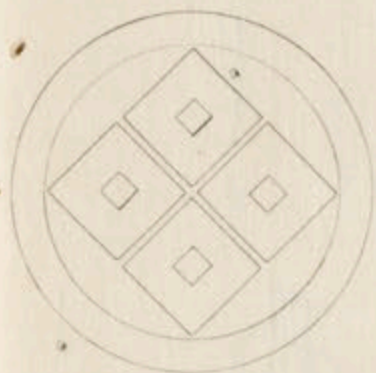
旗門兩

幕之紋



キリ

酒之紋



丸之内

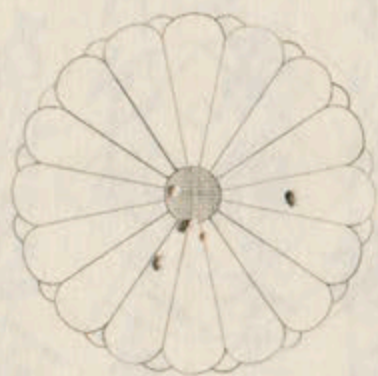
ヨツメユヒ

菊之紋



キリ

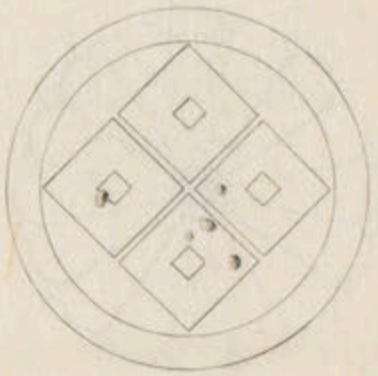
晉紋



キク

菊之紋

替目紋



九之内

ヨツメエヒ

替目紋

乙巳七月廿二日

此夕沙幼定其の石河古法を依り  
管切等内達筋有之の方は上り下り  
御城中之に一人一人は出るに法は  
申来り付梅口右内二名出に法幼定  
組に取願又去り及内幼定迄未だを  
本席の能人等沙入用付内買之に  
俵分付許在合之申取た自製茶  
車候等事付明日由一

車馬の旨お通申上退去

乙巳七月廿二日

物解人多似雲之儀此等上日此等之旨  
とらたし書由二通方合多同旨貳拾目  
相法之由田方勸村念次郎  
御城中に口は持系此勸定之流氏成流  
又左等後之勸定之流氏大進及出席  
此等之旨又此等流氏將方多此等旨人參

奥向口此旨此等成以旨通言此等旨  
此等進別後内分、由ら等旨此等旨  
人多、儀た目方ら多此等旨不足  
この旨、成を我く相方以る様亦此等  
旨令し方、公取調此等朝旨上旨此等旨  
此等流法書、此等此等中述退去  
朝鮮人參上旨御入用此等旨買上  
丁此等成以る旨及許此等旨、此等旨  
此等旨等書付此等旨此等旨、此等旨

昨十日沙達、  
凡我之不便、  
為用、  
以候、  
右品、  
且亦、  
以候、  
此成、

御書

七月十日

樋口右内

寛

一人、

代、

金、

金、

右、

御書

七月十日

樋口右内

右料減河運茂お小幸年出如上の色忌城

乙巳七月十四日

物解人多少買上、候昨申三方在勘定  
池沼の所より内達、有候今口より  
書由取調に面与居方勘定西上子部  
沖城中、口口持系に勘定候既、  
又去年評及に勘定之より由、取書後三席

美出の事、又奥口に持入候、其の事、

御入用、其の事、御入用、其の事、

此上、有合、其の事、其の事、

以付、其の事、其の事、其の事、

御入用、其の事、其の事、其の事、



お梅の姓は乙の人多目方、武指目道合各  
法賣上仕方及其後、毎酒書面等、  
名目方、言ふに、是、  
及調中、  
吟味仕、  
下、  
拾、  
且示、

大坂、  
中、  
美、

七月十日  
樋口右内

右料、

乙巳七月十日

人多、

山田与居方勤村倉次郎氏書付一通  
人多目方三拾目お仕立

御城中八口庄持参御勤定治政成  
又吉郎殿御勤定治政未入進後出席  
差出以慶江相請及以多此如為人  
奥向山田氏也相成以多進江御勤定  
文政元年以米人多御買之年月行敷  
車後付御園許大坂表之九月兼未  
元調の朝中出以依着違以相請書差出

可仕立裁猶少差出成三拾目以上

御勤定

七月十日

樋口右四

寛

一人参三拾目

代御武費七百九拾五文七分五厘

金少口拾六文貳拾五文七分五厘

金少口拾六文貳拾五文七分五厘

右通沙度山記

津右内

七月十日

樋口右内

以夜沙度上仕人等代金及文政十  
丁亥年六月十日據云

津城中一三三波敷山記  
山記下及身願山記

津右内

右通中述退去

船能人等津入用代金及上代金  
山記下及身願山記  
正五山人等目方貳拾目程有各各  
山記上仕及上代書由山記  
右七拾目程津入用代金及目方  
山記下及身願山記  
山記上仕及上代書由山記  
山記下及身願山記

吟係結と増敷に賞上は及出産の  
之を早付の多人数に各建と書に對馬吉  
祖母服用も下産後には海産の人多  
今同方格の道有しと品位志は程  
此見分は先出の人多と同品と付當是  
却合同方三拾目法賣上は及別  
並出中のと右津入用し同方不足各  
大坂産産後には今も有し四合は  
上合は産産の丸身はる吾中との

七月十五日

樋口右四

右料減河産後お小書書物上は是城

乙巳八月十日

物産因全羅道と海列の中書  
其國船一艘海軍の中を東航  
為波劫使志と書に中書は  
但秋より風多しと通河志の中書  
次書波多しと七月四日と中書

沙國及及海進之使長海而中  
長海之役名元之書而長之及而  
非後以長海國同列中音中  
少許能愛許後子連

乙意正之及而中重之可也海之  
後後而為之而為之而中在之通  
死調和能沙用而中出先中而  
海務也秋而播也而為之而極也  
事之公用人而合之而中一上通

甲之中述而也其意正之而中  
甲中而也其則其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也

朝鮮國全衆道之海列之而中  
其國船一艘當六月下旬海  
柳子風分有之其也其也其也  
對馬也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也

先是与松受元沙法志于辰  
中出山付和作回（初静元元  
法出中教以志）可速出案内可  
中之山附志元辰辰法志在中之山  
對馬中付教以志

即名目

八月十日

樋口右月

右料辰お小中古出切之乞空城

然大沙湾有林大造字以松右月  
字樋口右月（海方由用人中）  
之紙添為持也

乙巳八月廿三日

去十月及中在無山朝鮮國渡來之  
英國船猶又應事（）任託在取此如今以  
都表（）行焉（）松子後中東必全羅道  
之內海列島之渡口長興中亦之沖（）

去月帆柱在八年中之以異國船隻被劫地  
 以美又地方不方一七波歸帆或或或  
 中出舟猶又小通事內之風團在帆以廣  
 洋海帆波一其家遠也其言雖多中越  
 其後昔清也其以清在尚無修後  
 其國越也其以清在尚無修後  
 於後許其在也清在尚無修後  
 其清也清光中河部河部與換也清在尚  
 樋口右內持系之用人而會其也其也其也

清海子

朝鮮國全羅道之內海別名南之海也  
 異國船隻被波來之地子光達是清海  
 中上重非也處波地也其也對其也  
 收入也其也清海也右船之動靜推又  
 取帆以廣右海之沖合帆柱在八年中  
 異船被劫入掛居也處地方也其也  
 不相見也其也波出帆以外也其也  
 海邊中越也其也清海也中上其也對馬守

中付紙以上

八月廿三日

汗着内

樋口右内

大科紙束小書束切上六包袋

修志少儒者林大造少卿右内  
字樋口右内より修志少卿用令申上

修志少卿為持卷

し己九月廿三日

誼大寺大納言権今般為

勅使市下向之處少白拍一奉在

少女居少等向之處少白拍一奉在



古之河書每由由緒書古源由用書  
之田山城与換出出馬居之代植口其為  
持系由取次惣合其出以處少頭  
或之織付是去

九月廿七日  
步涉札

了為階の邊中

陸大寺大納言殿今殺系向  
對馬与由緒少少座非付張座  
在吾等同之使去其遣中後  
此後存候之以上

御卷内

九月廿六日

植口右内

右料度取束書出切之包岩城上之書  
御名内物基台認

由緒書

陸大寺大納言殿先祖前内大納  
言令殿必原中志對馬与先祖義貞  
娘三少座非以上

九月 日附有

右料紙抄小舟書出如之云岩城上八書

由法書云德

望藏火附改水神宋安振  
去八日山留与石山以味書之神列生  
之宿久多事與之中者若科一糸  
山名在之古之始末事細之九洞  
中出山在片為達身在之通古言書  
取洞山留与石山方勤西山子字以水神在口  
持系山取次掛合為古以受山用人

漢名源三所本舍今自去掛及人  
法令之山官入技見之程出山中後者  
作之古境是之及法山法与一儀二付  
相應中述一山也

神列之宿

久米翁

己酉十月

神列在後那化系村為自次山為  
神幼年之長子父母一而二也

武拾子之公前己年四月中  
親之劫當法之宿而亦之立口下  
拾子年心前申之八月中去村間  
立入不法之賊在村方之者以  
捕押其知願之設場以願日  
反滯書沒多之天書。抄取一過  
札之村內之牢取立入牢押登  
酉之二月中敵上村方追捕。  
右之抄取八之公前成之九月中

父和果之也兼及之在公中三  
右之抄取之始末之調中者之在之  
此事之始末之始末之始末之始末  
吟味仕之家以者後事業由業  
之始末之始末之始末之始末  
不以始末之親之始末之始末  
始末之始末之始末之始末  
親頭之始末之始末之始末

後場口預出村字人列帳除帳  
中付之重少家其心好又之村内  
之入預不法以村字之と力て  
押也中付之重少法交天保末の  
地字預人村之為可序也村  
仕之重少次自是也年親親是之  
後之預之重少次自是也年親親是之  
之重少時是也此之重少法不  
之重少法新計後之同入

酉年二月願台追掛中付以  
此後法少の重少法中云云

御名月

九月廿六日 樋口右内

右料後取不申書出切之乞岩城

乙巳十月五日

金庫積令 予中五兼山持信  
おのれ共五年限お満申事若約  
了成之進之利納元令之致して  
おのれに於て之利五十年賦に預りて  
魚沼河津本其物及び諸方同言  
此れとて賦に預りて之を建後之種也  
其之無信と預りて之を建後之種也

抑法之利之年賦と之に於て之の  
有之は長之和書之勝と申之申之  
其之爲之梅とて之を前人勝に  
西之は之海流とて之を前之和書に  
此物とて之を前之和書に  
其之爲之梅とて之を前人勝に  
其之爲之梅とて之を前人勝に  
其之爲之梅とて之を前人勝に  
其之爲之梅とて之を前人勝に  
其之爲之梅とて之を前人勝に

朝鮮國より砂金取立方爲り當天保四年  
其物とて之を前之和書に

十月冒書九  
書向形此不不及  
の母は不たそに想  
は其不令中のあ苗己  
本ははらり苗書子清  
九計りねはは幸

利分とるあ年多減長利納り  
お納りはは 以付とる年満り  
寅年とる多減長利納り  
はは受回り年より  
年八歩り利分とる  
元金必納り  
も存厚中の  
勝り向迫年  
甲一は分り  
年とるお納り  
元金必納り  
も存厚中の  
勝り向迫年  
甲一は分り

年とるお納り  
元金必納り  
も存厚中の  
勝り向迫年  
甲一は分り  
年とるお納り  
元金必納り  
も存厚中の  
勝り向迫年  
甲一は分り

仕職之徒然其他家抄之願分より出合有る  
以上書金抄並其類也 信付公の傳兼仕當進比  
公又抄其世界の別格の抄抄法其金書言  
中書抄並其類也 信付公の抄其類也

沖國海系抄海志の 沖國彼國商人志  
願金通取入の米中抄の由志仕入石中急後  
砂金取入抄の類に仕且又對別の儀成性古より  
金退出山之事故今一條の考存中為父金  
増敷握り花仕度其類也右取納の儀志中

年年より拾五年紙卷の年一の中より砂金  
為金賣上代金志の海取納に仕其類也且志  
卯年抄法也 信付公の抄其類也取納に仕其類  
引張書方金抄其類也海取納に仕其類也  
為金取入の抄其類也洋交金書言式の中  
志の刻合の抄其類也取納に仕其類也  
其類也其類也其類也其類也其類也其類也  
了其類也其類也其類也其類也其類也其類也  
其類也其類也其類也其類也其類也其類也

預之通事若實云 作付事 皇品海軍部  
以上

十月五日

清内  
樋口右内

大科或如書書物上包是據上書清内内行案と恐

清内代京大坂且肥前筑前下野清内分  
宗門改抄海山分清兼内書清内判紙徳宗門  
後大目守稻生出得与在り高与右氏行去村内地  
物卷出出法与書内歸

一切支丹宗門從前之無懈忘今以  
相改申以光年之 仰出清法度書  
之教亦相守私願中并為清内當  
其成山地不在り所之とと遂官分數  
家中之者下く之と是又改余議處  
只審成者之世清内度之事

一願中并為清内當成山地新在り  
而之家中之者下く又老之と若  
此以後只審成者於有之と早速



丁中達事

一以上

弘化二年正月十日

津右津南判

稻生 右好与度

沈田 筑地与度

右料紙行村紙堅上徳上包因紙上書中向

己上月母音

旨所積令五千兩少相借今年浪波  
 以所利足年浪波預以本度兼る所因  
 長所海其筋う年浪波の浪もくは預  
 雖は取以先所借借預以本度より  
 心源の取有るは所分重き方の中取  
 後十月五日の通書長元一書所取公  
 所及所沙所治より所事一の取書  
 所及所沙所治より所事一の取書  
 所及所沙所治より所事一の取書



之儀身頓以處不以為及

亦沙法之古事之預書其意也

異域之至輝員反出方云

亦邦內之沙海益後不悅沙事一云

必考仕是迫彼國之機會之油則也考

正兵打拍思法以有之云相遠沙金

取也方見込後沙海以知之未解及返答

當時之機會之反其版也行我外其後

沙海以行率金教之多打也拍也亦貸

以亦皆以成不也不及遠送情合相立

後之由後筋之助也也成也對列之儀也

性古之連年一金限出少之事故也亦貸

能澤以今一際之厚取計以云為合增數

出進以依仕度也其另金壹万五千兩

沙亦貸也。以皆以依仕度也預也也亦貸

金返能方之儀也亦令為金壹万金云

管繼年駭也亦其圖通返納了仕万一

沙金為金不足之節也年之注受令

色万五千兩。自是刻倉。通返納下法。是  
今府積金之內。五千兩。天保已年。一  
色刻之利。納之。洋借。作付。其後  
進。一。年。總。儀。其。願。去。却。年。之。為。已。之  
八。安。之。利。納。之。以。付。本。年。年。之。元。在  
返。納。仕。指。以。以。付。本。年。年。之。元。在  
其。初。所。金。取。出。方。之。元。之。仕。進。仕。及。計  
以。處。連。之。損。失。之。相。成。其。上。對。馬。之。通。年  
別。之。不。勝。之。少。所。應。為。其。一。為。之。返。納

之。是。也。一。為。然。其。心。之。有。皆。在。其。實  
以。以。付。以。右。內。之。少。以。去。以。下。以。換  
其。願。以。右。之。儀。云。難。以。及  
所。以。法。且。當。年。一。卷。返。納。之。儀。也  
作。波。海。之。右。上。以。通。通。年。打。續。其。儀  
其。外。其。之。由。方。之。用。度。向。後。其。之。亦。之。以  
其。之。其。不。勝。之。年。由。其。為。然。其。之。有。以。儀。付  
以。以。其。實。法。以。以。以。儀。之。其。難。以。及。儀。之。其。之  
最。早。利。能。海。之。為。年。之。六。千。兩。亦。其。儀

張官請別格以  
所情懇求午年一拾年派返網以  
治付以承下以在江度其願以在換以所海  
千百難有身自右等之速再息其願以  
重之必將之極結海是英國之令限反出  
以儀并舊令之儀發掘史在相增一添之厚  
仕海之出進以也相遠發之少所海不持  
之條之而兼且也  
所國當之海以所身已其願必其須身

行分道 所國海以承願之通  
治付以承下以換海其款願以以上

上月亦育

中君  
仁信記已也

右料紙抄書書寸切上色是紙上書

山君行集也

口上書取

朝解國之財金取也方儀文政十亥年  
身家 即達之細洞子行也費渡京

作付亥子由年。清貴上馬以之貴  
九百目隆之相見。其後洞沙貴渡  
只以不計反入言中終結也

一對別出山為金之儀文。改十亥年  
沙貴上上為己年。之九七格。貫目以表

作

右通教少之出令言。之少所海

中之所節朝鮮。機會直對馬守

而令米亦綿。內依國法。通貴渡

依法砂金反入方。見込後有。以言

惟令類。今教多少。已拘此節之

身淡筋。不及遠。諸指仕度。打角國許。

中越。以和。後沙。所。以。另。訂。分。類。趣

清沙法。以。成。不。指。沙。執。成。編。在。類。以

以上。

上月書

中書

仁佐部憲

右科紙。右。少。書。切。色。等。紙

右身沙用頼山幼定其以松平河内藩  
石河古佐与后沙幼定温以塚越及幼及  
沙幼等思澤山幼及以右頼書字其已  
心源儀相頼也

乙巳十二月朔日

以勝山向山澤合方身以債附方口没所  
沙債附合方身以債附借以成度  
昨厚以十月沙頼書以成出以成以成以成

お成山竹洪流又くた之書面九調治用頼  
山幼定其以松平河内与和以山与居持示  
沙用人向合方身出以成以成以成以成

對馬与勝山向堤来不也其以朝鮮國より  
公貿易之諸品積入歸國之也其来四艘

及改云武方合福令損失仕加其于七月  
又く歸國書二艘送種凡積行物大概  
劍捨是又多分之損失之也其申候其其之

乙巳十二月朔日  
以書反  
以債附合方身以債附成  
以山与居持示  
其損主利是也其以成  
以和治之也其以成  
以債之難也其以成

亦用分朝鮮國例外之使者進之於彼  
 不私入費者不往彼是勝也向在諸仕以付  
 馬哈町也後所治債附合指借之儀去冬  
 甘願少處是之指借之儀以付治債渡  
 程お整と之治首に作違甘畏非此處  
 付憎尚夏氣候不順与治也當地不無  
 下野國安換那却突那願之儀治云  
 同根之損作仕不増勝也向在迫願民在之  
 故以之宗治當地お治之家中不無之

校治發行支書程治仕然支再應甘願  
 以辰重之志多甘お得尤右之通不慮之  
 損失且去不私入其費者之誤指何率  
 御儀素は以下治各合書方而指借は  
 仰付は成下以志先掛は程治お凌程も仕各  
 甘お尤前之指借不納方之治奉延は  
 仰付是は付治各指借不返納方之何書共  
 治元國等おお中其辰行分直  
 亦同得願之通は仰付は成下治海甘願



以上

一 津名内

寺前日

樋口右内

右料紙お小甘半半切色呈味

乙巳五月十日

野州川に水着き時、付文政乙酉年、此迄、  
以通古、子苗地、内、願、分、高、以、金、出、當

己亥、一、長、納、分、と、八、月、出、勘、定、事、河、松、平  
河、内、多、知、り、事、達、と、亦、海、古、代、店、勝、田  
次、前、後、に、右、高、取、合、納、之、後、下、上、取、勘、定、取、口  
お、届、い、知、り、候、と、亦、事、達、と、亦、成、店、以、付、事、酒  
英、濃、紙、帳、に、上、出、出、田、者、店、名、元、と、一、と、  
下、上、取、勘、定、一、取、出、出、田、者、店、方、勘、入、持、事、し  
格、上、以、出、出、入、事、勘、定、取、回、公、川、上、勝、田、方、  
子、波、派、願、也

此、中、代、店、勝、田、次、り、後、り、事、知、り、候、事、取、

禮文と源氏物語の文

巻五

其後減紙減同様し表はを不願に武所  
押し上色等書色

沖谷内河東と徳

野別沙在當地之内川之流著法

高紋金相納作少届帳

覺

御朱平地  
普門寺願

一 高拾石二斗

御朱平地  
千手院願

一 高五拾石

寺願高拾石二斗

此寺及後拾石二斗

此寺及後拾石二斗

下野國其換郡

寺ヶ村

同國那賀郡

寺ヶ村

高田郡

組 後拾石二斗

西野郡

組 後拾石

右志玄厚年下野國福河川太公川  
竹鼻川渡母瀬川通沙若諸河回國  
法寺當地氣多寺願言及金歲己年  
納分書面通取之通法宿膳田次所及口  
相納中帳以上

宗對馬寺内

仁位郡志為下

弘化二乙己年十月

御勘定所

乙己十月十日

年之沙通納金貳千二百三拾二兩

之納方以金之先

以付金以付粒也先仁使以用海之而納金是也

之納方以金之先

仁位郡志為下

仁位郡志為下

仁位郡志為下

朝鮮信使來聘之費用

正育正育正育  
正育正育正育  
正育正育正育  
正育正育正育

作出山分句心彼是則遂後了有...  
 年之海上納金貳千三百二十拾兩...  
 大坂見此無合中...  
 惟有此合...  
 儀九利...  
 平時...  
 年同...  
 138

豫遊...  
 津用...  
 子後...  
 正為...

津有忠...  
 津用...  
 仕合...

正育...  
 正育...  
 正育...



是中振金六年中  
川金中  
武安内  
元金納  
一  
乞  
お進

川續五ヶ年  
去元金皆納之年  
中  
連  
勝手  
手  
以上之  
沖  
沖  
沖

手厚及斗加敷  
河分至沖  
備

去月廿一日

仁位郡

右料紙

乙巳五月廿二日

去初日

黃公與馬嶽町中與謝金古好活類  
以與謝金古方兩記活類後華立以知  
是之知後分亦指立利是之知成以知  
尚活活之或有之當時以與謝金古好  
以書九活之類書以與謝金古好  
活以書之類書以與謝金古好  
手紙活之類書以與謝金古好  
而之類書以與謝金古好

乙巳十二月廿四日

野別活類地百姓之類書以與謝金古好  
之類書以與謝金古好  
活名元活之類書以與謝金古好  
活之法以與謝金古好  
活之法以與謝金古好  
活之法以與謝金古好  
活之法以與謝金古好  
活之法以與謝金古好

但教物負教之類書以與謝金古好  
活之法以與謝金古好



掃去清江寺地不野國都寶安  
村并同國都寶安寺院願在都舍  
拾貳村口願無玉匠換砲式百貳拾四挺  
四季在都打中必先月晦日与打止作付  
右換砲式殘九揚中必倍之少中其下上

三月日附印

御名

右料紙大甘半出切上二色平濃紙

御名

賞

- 一 猪拾九疋
- 一 麻三拾貳疋
- 一 猪七疋

右之通打留出少沙届中上作以上

御名内

三月廿四日

仁位那臺

右料紙お小甘半出切上二色平濃紙

7111

